
夢の終わり

零

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢の終わり

【Nコード】

N6231M

【作者名】

零

【あらすじ】

解毒剤が完成し、志保達は元の体に戻った。しかし、志保の身体は解毒剤の試作品の服用のしすぎで限界になっていた。

（前書き）

初投稿です。ありきたりな話。暗いので注意して下さい。

急に息苦しくなつて咳き込んだ時に覆つた掌は自分の血で濡れていた。
様々な解毒剤を服用してきたこの体はもう限界に近づきつつあるのだ。

「もう…だめなのね。」

そう呟いた言葉には何の感情も詰まっていなかった。そう…、本当に何の感情も湧かないのだ。悲しくなんてない。悔しくなんてない。これは当然の報いなのだ。幸せな温かい時間を過ごしているうちに忘れかけていた罪は無くなつてなんかいなかった。平穏と続く日常にもしかしたら自分は赦されたのかもしれない、自分はラッキーなのかもしれないなどと考えたのは愚かだった。馬鹿だったのだ。神はちゃんと罪を見ていた。憶えていた。
罪はいつか必ず償わなくてはならない。その時が今来たというだけなのだ。悲しいわけなんてない。悲しむ資格なんてない。端から自分に幸せな未来を得る権利など用意されていなかったのだから。

その時ふと、同じ運命を共有した隣人のことが頭に浮かんた。彼は自分のことを知ったらどう思うのだろうか。

優しい彼のことだからきつと泣けない私の代わりに泣くのだろう。何故、お前がそんな目に遭うのか。何故、自分ではなくお前なのかと。

もしかしたら、薬の開発を私一人に任せていたことに責任を感じてしまうかもしれない。彼は優しすぎるから。
そんなことはあつてはならない。やっと彼は解放されるのだ。黒い

呪縛から。時の静止から。彼は二度とこちらの世界と関わってはいけない…。

私の決意は固まった。どうせ独りには慣れている。残りの時間はまた独りで生きていこう。この温かい世界を脱け出して罪を受け止めよう。何も悲しくない…。

唯一少し心残りがあるとすれば、元の体に戻った彼をもう少し見ていたかった。一度でいいから手をとって見たかったなんて、きっと私^がわがままになった証拠だ。

思わず、嘲笑とも苦笑ともとれる笑みをこぼした。

ここからは夢の終わり。

現実を知らせる鐘のように外では雷鳴が響いていた。

（後書き）

暗いなあ（^ー^;）

志保さんには幸せになって欲しいのに自分が書くところも暗い話に
…。
お目汚し失礼しました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6231m/>

夢の終わり

2010年10月10日06時23分発行